

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 82

学校名・団体名	東大阪市立柏田小学校
HPアドレス	http://www.city.higashiosaka.lg.jp/school/kashita-e/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	かんどう、しんけん、だいすき ～国際理解教育の推進～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>子どもたちが、国際化社会を生きるために必要な資質や能力を養うことを目的とする。</p> <p>韓国・中国・フィリピン・ブラジルにルーツを持つ子どもたちに関わるなかで、日本のこどもたちに多文化共生について「ちがいを豊かさに」をテーマに、他者を受け入れ自己を理解する心を育ませたい。</p>	

1 本校の現状

本校は「1人ひとりの子どもに、豊かな人間性と確かな学力、体力を」を教育目標に掲げ、教育実践を重ねている。東大阪市の西南部に位置し、大阪市と隣接している地域にあり、中小の町工場が多く立ち並ぶ地域である。現在は不況の波を受け、経済的に厳しい家庭も少なくない。

また韓国朝鮮のほかフィリピンやブラジルなど外国にルーツを持つ児童は全校児童の21%にのぼる。

しかし昨今の国際情勢は、北朝鮮のミサイル発射など厳しい状況が続き、外国にルーツを持つ子どもたちが、必ずしもいつも堂々と胸をはって毎日過ごせている、とは言い切れない現状がある。

このような中で、本校では人権教育部を中心として、在日外国人教育を推進し、マイノリティである外国にルーツを持つ子どもたちが、自分の民族のルーツと文化に誇りを持ち、日本人の児童と手を取りあい、前向きに生きていく力を育むため、以下のような実践を進めた。

2 活動内容

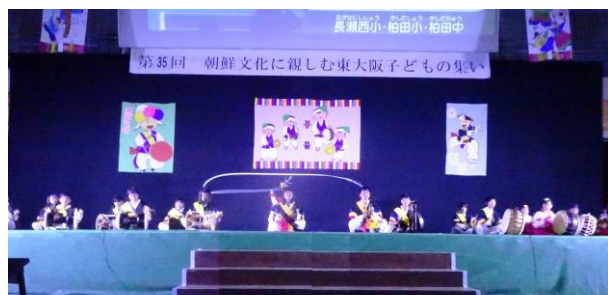
- (1) 対象 本校全児童196名
- (2) 教科 総合的な学習の時間、(一部で学校裁量の時間を含む)
- (3) ねらい
 - ・外国にルーツを持つ児童の民族意識を高める
 - ・日本人児童の国際理解についての意識を高め、共に学び共に育つ集団をつくる
 - ・教職員の人権感覚(特に国際理解教育、在日外国人教育)の向上

(4) 活動の特色

- ①韓国・朝鮮にルーツを持つ児童に対しては、概ね週1回「母国語学級」として、学校裁量の時間に韓国朝鮮の文化や歴史を学ぶ時間を設け、児童の民族意識の高揚をめざした。
- ②中国にルーツのある児童に対しては、東大阪市の在日外国人教育研究協議会と連携し、「歓聚一堂(ファンジュウイータン)」などの行事に参加し、同じルーツを持つ仲間との出会いの場を設けた。
- ③ブラジルにルーツを持つ児童に対しては、同じく市外教の「ワールドパーティー」等の活動を通じて、自分のルーツに誇りを持たせた。
- ④これらを取り巻く(圧倒的多数の)日本人児童に対しては、総合的な学習の時間を中心に国際理解教育を進め、様々な文化の違いを豊かさに変えていく姿勢を身につけさせたい。
- ⑤教職員に対しては、京都ノートルダム大の住本純助教や、元本市校長の植田忠雄氏、本市教諭OBの伊原嘉江氏を講師に招き、定期的な教職員研修や進捗状況確認のアドバイスをいただいた。

(5) 活動時期および内容

- | | |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1学期 | 本研究のねらいを校長より教職員に周知徹底
中国籍児童が歓聚一堂(ファンジュウイータン)に参加
韓国籍児童が東大阪市サマースクールに参加 |
| 9月 | 本研究実践に関わる教職員研修
母国語学級活動の支援 |
| 10月 | 中国にルーツを持つ児童による校内縦割り交流を実施
「朝鮮文化に親しむ東大阪子どもの集い」で朝鮮の楽器演奏の発表 |
| 11月 | 本研究に関わる国際理解教育の
公開授業を実施
母国語学級児童が東大阪国際交流フェスティバルに出演
校内の国際理解教育の児童発表の場として「柏田っ子ワールド」を開催
先進校視察、京都府福知山市桃映中学校区の研究発表に参加
文部科学省指定「人権教育総合推進地域事業」の研究発表で、在日外国人教育をテーマとした公開授業を実践 |
| 12月 | ブラジル籍児童が、ワールドパーティーに参加 |
| 1月 | 韓国籍児童が冬季学校「トンギハッキョ」に参加 |
| 2月 | 研究実践のまとめ
柏田中学校区11年間で子どもにつけたい力のリーフレットを作成、配布 |
| 3月 | 本年度の研究収録冊子作成(後日、配布させていただく予定です) |



朝鮮文化に親しむ東大阪子どもの集いで発表する児童

3 研究実践の効果測定

全校児童（平成 28 年度 196 名、平成 29 年度 195 名）を対象に例年 11 月に実施している「東大阪市学びのトライアル事業アンケート」および「学校教育自己診断アンケート」のうち以下の 5 項目の回答結果に着目し、全校児童と外国にルーツを持つ児童（平成 28 年度 42 名、H29 年度 41 名）の肯定回答（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）の割合を H28 年度の同時期の調査と結果を比較し分析を行った。

「自分にはよいところがある」「将来の夢や希望を持っている」の 2 項目については、全校児童で前年度と比較すると意識の向上が見られた。（自分にはよいところがある、の項目では 1% 増、将来の夢や希望を持っている、の項目では 6% 増）児童の自己肯定感や自己有用感の高まっていることが期待できる。さらに外国にルーツを持つ児童については、それぞれ 5% 増、8% 増の高い伸びが見られた。しかしながら全校児童の数値から見るとやや厳しい数値である。

次に前年度の調査ではなかったが、本年度のみの調査項目で「人の役に立つ人間になりたい」「いじめはどんな理由があってもいけない」「人が困っているところを見ると助ける」の 3 項目について見ると、全校児童の意識も 8 割から 9 割の高い水準であるが、それにもまして外国にルーツを持つ児童が高い意識を持っていることがうかがえる。

さらに上記 5 つの質問項目について児童の回答を「そう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「思わない」「無回答・その他」で細かく観察すると、5 項目の全てで外国にルーツを持つ児童は「そう思う」や「思わない」などの強い肯定や強い否定回答で答える割合が高かった。

これは「やや思う」や「あまり思わない」と回答する割合が高い日本人児童と比較して、興味深い結果であった。もちろん、個々の児童の性格などで一概には断定できないが、このような一面もある、ということ念頭に置いて児童に向き合うことは非常に大切なことであると感じた。

東大阪市学びのトライアル事業児童アンケートより、肯定回答の割合(%)

	全児童		外国にルーツを持つ児童	
	H28年度	H29年度	H28年度	H29年度
自分にはよいところがある	80	81	75	80
将来の夢や目標を持っている	83	89	78	86

学校教育自己診断児童アンケートより、肯定回答の割合(%)

	全児童		外国にルーツを持つ児童	
	H28年度	H29年度	H28年度	H29年度
人の役に立つ人間になりたい	—	96	—	97
いじめはどんな理由があってもいけない	—	79	—	82
人が困っているところを見ると助ける	—	91	—	92

また数値による効果測定はないものの、中国にルーツを持つ児童が校内で学年を超えて縦割り集団で集まり、中国の文化について学習した場面では、自分たちのルーツについて誇りを持つ児童の表情が印象的であった。

さらに校内で 1 人のブラジル籍児童について、12 月のワールドパーティーに参加した際には、大はしゃぎで母国ブラジルの伝統競技であるカポエラの演武に取り組み、普段学校では見ることができないような嬉しそうな表情を浮かべていた。

本研究では、一年間の実践期間で、大きな成果が得られたという段階にまでは、まだ到達しているとは言えないが、今回の研究助成を契機にして、今後も子どもたちのために教職員が一丸となって、これからの本校の多文化共生・在日外国人教育を一層充実したものとしていきたいと考えている。

このような貴重な研究の機会を与えていただいた「公益財団法人 ちゅうでん教育振興財団」の関係各位に深く々々感謝いたします。ありがとうございました。



ワールドパーティーで「カポエラ」を体験する児童